

# 第47回 PTAと市長との懇談会 実施報告

主催 府中市立小中学校PTA連合会

令和3年7月9日（金） 教育センター

## 8 懇談要旨

テーマ…新しい学校づくりについて

児童の安全確保について

フリートーク

### (1) 新しい学校づくりについて

[白糸台小PTA]

G I G Aスクール構想という取組が進んでいる中、今年度からC h r o m e b o o kが市内全ての小学生に支給されましたが、その活用においては、基本的な使い方などを習ったうえ、その後に自宅に持ち帰るものと思いますが、家庭内でのW i - F iなど通信インフラの整備状況について、市や教育委員会として何かツールの提供などの補助、または、支援等の方針がありましたら教えてください。

また、白糸台小学校は、校舎の老朽化がかなり進んでおり、保護者の方々から、トイレやプールなどの設備の老朽化についても、特にトイレの汚れや臭いが気になるというご意見をいただいております。整備計画の中で、順々に改築やメンテナンスが行われるものと思いますが、それが何年か先になるという見通しがあるのであれば、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響もあり、保護者間でも衛生面に対する関心が高まっておりますので、トイレの清掃などを別途行っていただけないでしょうか。

[市長]

まず、G I G Aスクールにつきましては、パソコンを小学校1年生から中学校3年生まで1人1台貸与しており、すぐに学べるソフトも入っているので、この夏休みに持ち帰っていただいて、自宅で操作に慣れ親しんでもらいたいと思っております。

また、それぞれの家庭において通信環境やIT関連への関心度が異なることについても、課題として把握しているところです。

老朽化対策については、府中市内には小学校が22校、中学校が11校の計33校あり、そのほとんどが昭和30年代半ばから40年代にかけて建てられました。当初、昭和29年に府中市ができたときは5万人だった人口が、10年間で15万人程度まで増えており、そのスピードに合わせて学校を整備しなければならなかったことから、多くの学校が同時期に老朽化対策のタイミングを迎えてしまっております。

では、全て一度に建て替えられればよいのですが、財政的な課題や各学校における個別の状況を考慮し、建替えのタイミングを計らなければならないので、しっかりと調査し、グループ分けを行ったうえで、その老朽度を見極めつつ、2年に2校ぐらいの間隔で順次進めていきたいと思っておりますが、それでも、順番が最後になる学校は20年後となり、なかなか一気に進めることは難しいです。

トイレに関するご意見・ご要望は十分認識しておりますが、建替えとなると全て対応することは難しいところです。しかしながら、計画には、しっかりと「長寿命化などの」という文言を入れておりますので、子どもたちが学校において苦痛を感じない生活を送れるようにしたいと思っております。

#### [教育長]

GIGAスクールのWi-Fi環境につきましては、昨年度の4月に2カ月程度の臨時休校がありましたが、そのときは東京都や国からWi-Fi環境に関する補助がございました。実際に現物を貸与する取組でしたが、この取組は昨年度までで、今年度についてはそのような補助が無い状況です。

今後、夏休み等に1人1台のタブレットを自宅に持ち帰り、活用していただく場合で、ご家庭でWi-Fi環境をご用意していただくことが難しいときには、例えば、夏休みでも学校には日直や部活動のため出勤している先生もおり、Wi-Fi環境も整っておりますので、登校するということもあり得るかと思えます。

また、市の公共施設ではフリーWi-Fiが整備されておりますので、そちらも活用していただくなど、もとよりある資源やツールを活用しながらサポートしていきたいと思っております。

[学校施設課長]

学校の改築につきましては、白糸台小学校は建築後50年程度経過しておりますが、市内では、他にも建築後50年以上経過しているところはかなり多く、その中で、長寿命化改修計画に基づき、順次改築を進めていく予定です。計画を作る際には、平成30年に小学校6年生とその保護者、中学校2年生とその保護者にアンケートを行った結果、トイレに関する意見を多数いただいておりますので、改築等までに時間のかかる学校については、大規模改修整備方針を昨年度に定めまして、その中でグループ分けを行い、トイレの改修をさせていただき、また、プールの改修なども整備方針に位置づけながら、順番に進めてまいります。

[一小PTA]

現在、不登校や気が進まない中で登校している子どものほか、家庭内でも居場所がないケースもあります。対面授業は対人関係を学ぶ重要な機会になりますが、リモート学習によって学校に通えない子どもやその家庭の救いになると考えます。また、不登校ならばリモート授業、ということではなく、誰にでも選択できる方がよいと考えています。それには、授業の内容の見直しやサポート、カウンセラー体制の評価を含めて総点検を行う必要があると考えておりますが、どのようにお考えでしょうか。

また、第一小学校と第二小学校では、児童数が大変増えておりまして、これからも増加傾向だと聞いておりますが、学区内、学区域の見直し等は検討されているか質問させていただきたいと思えます。

[市長]

タブレット端末の配布や整備により、子どもたちの学習の形は非常に変わると思います。リモートという学習環境は、学習方法の幅

が広がることであり、これは生かしていかなければいけないと思います。

私がコメントすることではないと思いますが、学校は、あらかじめ用意されたカリキュラムを学ぶだけではなく、子どもたち同士の色々なやり取りや、先生や地域の皆さんとの触れ合いによって、人間性を伸ばしていくと思いますので、リモート学習は、学校に通うことが難しくなってしまったお子さんが学習を進めていく道具としては非常に良いし、また、そのことによって自分に自信がついて、またみんなのところに戻りたいという気持ちになってもらえるようなサポートはどんどんしていかなければいけないと思います。

ただし、必ずしも、これが全て不登校対策になるわけではないことから、違う方法も考えておかないといけないと思います。

学区域の変更は、非常にナーバスな問題であり、現在、この場所で学区域の変更を考えているかと問われますと、それは考えておりませんが、学びに差があってはいけないので、子どもたちの学習環境をよく見守りながら必要な対策は講じなければいけないと思っています。

#### [教育長]

不登校の児童生徒への対応において、リモート環境、いわゆるタブレット等の有効活用につきましては、様々な方法がございますが、現在のところ、不登校または登校のしづらさを感じている児童生徒だけに特化したプログラムを作成している状況ではありません。

しかしながら、課題意識としては、タブレット等も、やはり学校への復帰や学習に意欲を持って取り組んでもらうための1つのツールとして、活用できるものであると認識しています。

このほかにも、担任からの声かけであったり、実際のプリント等のやり取りであったりとか、人と人との関わり方といったものも、大切にしていかなければならないツールだと思っていますので、総合的に色々なツールを同時に活用していくことによって、不登校の子どもたちが学校等に戻ることに意欲を持って登校できることにつながるものになるのではないかと考えております。

カウンセラー等の体制につきましては、府中市では、東京都からの支援のもと、全校にスクールカウンセラーが配属されております。不登校対応の中で、スクールカウンセラーの果たす役割はとて大きく、児童生徒の抱える様々な悩みを受けとめ、指導に生かしていくためには、校内で教員とカウンセラーがしっかりと連携して、情報を適切に共有化して関わっていくことが大切です。これは、学校内における教育相談体制の充実としてお願いしており、不登校だけではなくていじめやコロナ禍でのストレスなど様々な問題がある中、カウンセラーと教員がより連携を図っていくようお願いしているところです。

(1) 児童の安全確保について

[四小PTA]

昨年はコロナ禍による影響から、土曜日の授業が非常に増えました。その中で、スクールゾーンが土曜日は対象外であることが非常に気になっております。いつもは通らない車両が登校の時間でも通っている。このような状況について、どのようにお考えか教えてください。

また、四小では、通学路に狭いところが多く、一般の家庭の塀で老朽化しているところがあります。過去に大阪で地震が起きたときに、塀が倒れて児童が亡くなることがありましたが、この点について、府中市として、どのように考えているのかをお聞かせいただけたらと思います。

[市長]

土曜日のスクールゾーンのことは、過去にもご質問などをいただいております。一つの対応例では、土曜日授業で登校するにもかかわらず、スクールゾーンになかなかできないことから、地域の方々が集まり、子どもたちの登校する時間帯に見守りを行われたということがあります。警察による規制も学校があるからというだけでは、早急に変えることはできないのですが、土曜授業とあらかじめ分かっていることですので、PTAの皆さんの力を借りるほか、地域の方々、例えば、商店街の皆さんにご協力いただくなど、



地域の力も借りながら対応するしかないのかなという思いも持っております。

結論にはなりません、私たちも皆さんからご意見をいただき、非常に関心を持っておりますことはご理解くださいますようお願いいたします。

また、通学路の点検につきましては、数年前に大阪で地震があり、そのときに小学校の塀が崩れて通学途中の女子児童の尊い命が失われました。当時、府中市内の各小中学校も通学路で万年塀などが点検されていたところで、その結果、把握した様々な課題については、補助金などを設けながら再整備をお願いしてきた経緯があります。

しかしながら、今年の6月には、千葉の八街市で下校途中の子どもたちの列に車が突っ込んでしまうという大きな衝撃的な事件ありました。私たちも当然、心を痛めており、市で改めて通学路の点検を行うこととしております。このため、ブロック塀やガードレールなどに関してお気づきの点や気になることがありましたら、リストアップやご指摘いただくなど、ぜひお願いしたいと思っております。

#### [学校施設課長]

土曜授業日のスクールゾーンにつきましては、担当部署としても警察と協議はさせていただきます。土曜日の授業が不定期ということもあり、警察としても早急に対応することが難しいようですが、引き続き、協議してまいりたいと考えております。

#### [四中PTA]

通学路上における防犯カメラについても、ぜひ検討していただければと思います。

#### [市長]

防犯カメラにつきましては、PTAの皆さんからご意見を頂き、各小学校の学区域内に設置しております。各学校で危険と思われる箇所や防犯上必要と思われる箇所に設置され、各学校7台、22校ありますので計154台設置しております。中学校の学区域として

は改めて設置しておりませんが、中学校は学校の周辺、施設外に防犯カメラを設置しております。犯罪を抑止するためには、防犯カメラというのは非常に有効な手段と捉えておりますので、しっかりと維持管理していきたいと思えます。

[日新小PTA]

市内の土曜授業は、実施にあたって、どのような設定等があるのか教えてください。また、通学路の問題について、日新小学校の学区内ですと、ちょうど配送業者の倉庫や拠点などが多く、大きな車両の通行が非常に多いことに不安を感じている保護者が複数いらっしゃいます。このことについて、何らかの安全策を今後ご検討いただけないでしょうか。

[市長]

土曜授業の設置、設定につきましては、教育長もしくは指導主事からお伝えさせていただきます。

通学路につきましては、車両の交通量や狭あいの道路が多いこと、そして商業地域における車の通行など、地域によって色々な課題があると承知しております。

日新小学校の区域では、物流センターが多いので大きいトラックの往来が多いですが、学校に近いという理由のみで建築物や車両通行に規制を設けることは難しいため、実態を踏まえて、事業者にも少し協力していただけると地域も安全なのかなと思えます。市内事業所の例では、事業所の敷地に車両が自由に出入りしていましたが、地域の皆さんからの協議を受けて、より安全を確保するため、出入りは左折に限るよう変更しました。このような例もありますので、皆さんのご意見を伝えるよう努めていかなければならない。もし、通学時間や下校時間に配車のスケジュールを少しずらしてもらえれば、事故などの危険性が下がると思えますので、通学路については、今後も、ぜひご意見をいただきたいと思えます。

[教育長]

土曜授業につきましては、年間9回程度を目安に授業時数を確保しなければならず、具体的には、それぞれの学校において、来年度のいつにどのような授業をするかを記載する教育課程届を作成し、そちらをチェックしながら、授業を進めていきます。過去に通常として、土曜授業が行われていたときでは、統一的に実施日が決められていましたが、現在は土曜日が原則休日となりましたので、実施日は各学校の判断に任されているところです。ただし、運動会などの学校行事を近隣の小中学校で同じ日にすると、保護者の方でお子さんが小学校にも中学校にもいらっしゃる場合がありますので、事前に学校間で日程調整を行うなどしております。このため、全校一律で、実施日を設けるよう規定することはできないことをご理解いただければと思っております。

### (3) フリートーク

#### [南町小PTA]

学校内のWi-Fi環境の帯域を拡大していただける可能性が今後あるのか教えてください。現在、南町小学校では、ふるさと学習を昔から継続して実施しており、その一貫として、今年度は南町小学校を取り巻く水の博物館をみんなで作ろうと取り組んでおります。その際に、ICT機器を活用して子どもたちの学びを深めるということを目的として、校長先生やPTA等のご支援を頂きながら進めているところでございます。

そこで、学習テーマをプレゼンテーション資料として映像コンテンツにまとめ、地域の方々、あるいは保護者の方々に発表するようなプラットフォームを作っていこうと考えており、このような取組を行うに当たって、映像が円滑に動作する環境が望まれます。

また、南町小学校では保護者向けにもオンラインの活用を強化しており、保護者会をオンラインで公開することに取り組み始め、地区の道徳公開講座についても、オンラインによるライブ配信で保護者の方に届けるという試みをしようとしております。体育館でリハーサルをしたのですが、学校のWi-Fiでは、スムーズな動画視聴が難しかったため、校内のWi-Fi環境の強化について、ご検討いただけるかどうかお聞きしたいと思います。



[市長]

これまでになかった様々な取組を進めていくために、必要なことは検討していくというのが私の答えであり、計画をする可能性はあります。新しい取組の中でぶつかる壁、これを乗り越える工夫として何ができるのか。もちろん、公平を期すために、広い視野で整備しなければなりません。私はそのように思っております。

[教育長]

G I G Aスクール構想を整備するに当たって、昨年度から今年度にかけて通信ネットワークの高速化工事を行い、W i - F i環境を整備しました。

現在としては、皆さんで通信環境を共有しながら、オンラインの活用を進める中で生じる様々な課題点について、学校から情報提供を受けているところです。今後も、教育環境が良くなるように改善していく方向で検討していきたいと思っております。

[七小P T A]

外国語教育につきまして、外国語の必修化とオリンピックの開催が重なり、子どもたちが外国の方と触れ合える良いきっかけになるかと期待しておりましたが、無観客で開催ということになりました。現状として、外国の方と触れ合う機会があまりないかもしれませんが、オンラインの活用により、子どもたちが外国文化に触れ、理解できるような機会を府中市として考えていただけると非常にありがたいと思っております。

また、七小の学区域内にある公園の利用につきまして、子どもたちがコロナ禍で活発に活動できる1つの場所として公園がありますが、近隣の方々もコロナ禍で非常にナーバスになっていることもあり、今まで以上に子どもたちの声に対して敏感になっているところがあります。学校にも子どもたちの騒ぎ声について、ご意見を頂戴しております。子どもたちには、P T Aや先生方からも、マナーに関する指導をしていただいておりますが、解決に至らない現状があります。私も、色々な理事会の対応等に参加させていただ

き、自治会長さんにもお話をさせていただきながら、何とかご理解いただけるようお願いしている状況です。例えば、府中市として公園利用に当たってのマナー啓発の看板などを設置していただくことができないかと思っております。

最後に、避難所運営につきまして、七小では、七小防災会議という、地域とPTAと学校の三者による会議の中で、コロナ禍における避難所運営に関する検討を進めており、今後は、府中市と連携を取りながら、速やかに七小における避難所運営の在り方を形作っていきたいと思っております。これをしっかりと作り込むことで、有事の際、子どもたちの学校教育の再開や維持などを、先生に頼らず、地域とPTAで行っていくことができます。

#### [市長]

外国語教育、外国文化に親しむことにつきましては、私も、外国から来るお客様へのおもてなしと交流を通して、子どもたちが世界に視野を広げ、そして、外国語への興味と学びにつながればと思っております。

また、オリンピック、パラリンピックはコロナ禍の状況もあり、府中市としても、オーストラリアとオーストリアのホストタウンとして、事前キャンプフォローに継続して取り組むほか、その他様々な取組の中で、オーストラリアとの子どもたちと市内の小学校とのオンラインでの交流もありました。両国とは、これから先も親しくお付き合いをさせていただき、このような経験をしっかりと生かしていきたいです。

子どもたちの公園利用につきましては、本市といたしましても、周辺住民の皆さんにご理解いただけるように努力をしております。子どもたちが自由に遊べる公園づくりは、誰もが望むものであり、そのような公園利用ができるようにしたいと思っております。

また、避難所運営につきましては、七小の皆さんを含め、地域には熱心な方々がいらっしゃって、地域のよき防災リーダーになっていただいております。そのような方々は、本当に市としては宝物でありますので、現在は、文化センターごとに自主防災連絡会という会を立ち上げまして、色々な意見交換をしております。コミュニ

ティを超えて、このような取組がより活発で積極的になるよう努めております。

[小柳小PTA]

小柳プールを廃止しますというお話がありましたが、府中市の今後の方針を教えてください。本日、子どもたちのふれあいが大変重要であるとのメッセージをいただきましたが、未来に向けて子どもたちの活動の場の確保について、どのように考えていらっしゃるのかをお聞かせいただきたいと思っております。

[市長]

小柳プールを含め、府中市では地域プールを複数設置しておりますが、これらは設置後およそ40年近く経過しており、老朽化が著しい状況です。

また、地域プールだけではなく、学校を含め公共施設が非常に多いことが府中市の特徴です。昭和40年から60年ぐらいまでは様々なニーズに応え、施設を整備してまいりましたが、平成の時代に入り、全ての公共施設をこのまま維持管理する、あるいは新しく更新していくことが非常に財政的に厳しくなりました。このことから、幅広くインフラの調査を行い、マネジメント方針を検討しましたところ、今後は、インフラを少し縮小していく方針となり、その中に地域プールが含まれている状況にあります。

地域プールは子どもたちが夏の暑い日に戯れて、水に親しみ、楽しい思い出をたくさん作った場所であると思っておりますが、老朽化対策として様々な補修をしていかなければならず、その費用対効果等について議論を重ねた結果、廃止せざるを得ない結論に至りました。数年前から、利用者や近隣にお住まいの方々には、丁寧に説明を重ねてきたつもりではございますが、地域プールを廃止することについては、現在もなお、様々なご意見をいただいているところです。

市として、今後のインフラの在り方に関する方針を策定し、進めてきたことに間違いはなかったと思っておりますが、地域の皆さ

んにそのことを理解していただくように、いま一度しっかりとした気持ちで取り組んでまいります。

また、代替案として、学校のプールを利用することについては、既に取り組を進めたところもあり、例えば、第十中学校はプールの移転を余儀なくされたときに、地域の方が学校の敷地内に入らずにプールに入れるよう設計し、一昨年は実際に活用もいたしました。

今後、学校を建替えていく中で、学校のプールが地域プールの役割を担うという考え方も含めつつ、学校施設の整備に取り組んでいくことが考えられます。

#### [二中PTA]

このコロナ禍において、長い間、子どもたちの経験の場が失われております。代わりとしての様々な企画もありますが、東京の中でも、特に、府中市は学校の規制が厳しい方だと伺いましたが、それに関して教育委員会としてどのようにお考えかをお聞かせいただければと思います。

#### [市長]

教育委員会としてのお尋ねでございますが、まずは、私の方からお話しさせていただきます。各市区町村の教育委員会については、東京都の教育委員会からの通達等を受けながら、様々な対応を進めており、それぞれの教育委員会において、個別に判断することが当然あると思いますが、私が大事だと思っていることは、子どもたちに色々な経験をしてもらうこと、その一方で、感染者を出してしまっただけではいけないこと。この責任だけは逃げずに、市ないしは教育委員会がしっかりと担うべきだと思っておりますので、教育委員会における1つ1つの取組、例えば、部活動や学校開放、宿泊授業などについて、安全優先に進めていくことは当然であって、コロナ前と同じように活動できるかという点、それはどうしても制限がかかってしまうのではないかと思います。

したがって、本市の教育委員会もコロナ終息に向けては、全ての事柄について、多くの皆さんと、特に、教育委員の皆さんとの連携を踏まえた上で進められているものと思っております。

[教育長]

教育委員会といたしましても、緊急事態宣言のように緊急性が高い事案であれば、東京都からの通知が来ていない中でも、臨時の校長会を開き、各学校と意見をすり合わせたりしながら、最終的な意見・方針を検討していくことを行っております。その中では、学校からの要望をただ集めるだけではなく、子どもたちや教職員の方々を守るために何ができるかを考えます。そして、教職員の皆さんを守ることは、そのご家族も守ることになりますので、府中市民を広く守るためには、どのような判断をしなければならないか、本当に日々悩んでおります。

前回のまん延防止等重点措置が発令された際には、府中市は名前を挙げて適用を受けたこともあり、近隣であっても適用を受けていない市と比較すると、当然ながら、本市の方が一段と安全対策を講じなければなりません。その部分は一定の判断基準となっております。様々な方面から、府中市の対応についてご質問・ご意見をいただいております。教育委員会としても、できることはさせてあげたいと思いつつも、その一方で、子どもたちの安全確保のために一定の線引きが必要であることを踏まえて、厳しい判断を行っている状況であることをご理解いただけると幸いです。

東京都は広域自治体であり、対応方針を示す際、その主な対象は都立学校、特に、学区域の無い都立高校を軸とした内容となります。

しかしながら、都立高校と府中市内の小中学校とは、登校時や学校設備などの環境が違います。市内の学校ごとでも、その環境の違いがございます。このような環境の差異を踏まえたとき、最も厳しい環境条件のところをベースに検討し、それを全体に広げてルール化していくしかないと思っております。

また、オリンピック・パラリンピック学校連携観戦につきましては、府中市では、やむなく見送ることになるということを、学校を通じて、ご連絡させていただいております。府中市では、子どもたちを安全に見学させるために、バスによる送迎など、府中市独自の安全配慮を付け加えることも検討してまいりましたが、コロナ禍の影響により席数の提供が少なくなったこと、そして、無観客開催の決定により、やむを得ず参加中止の判断となりました。